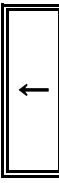


# CASBEE® 広島

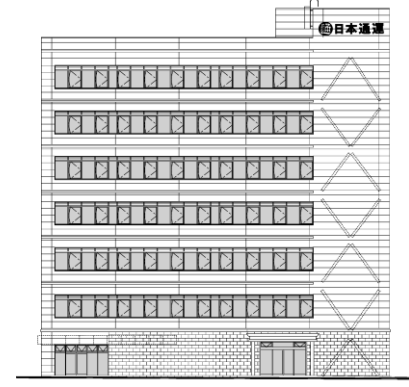
■使用評価マニュアル: CASBEE-広島 2014年版

使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

## 評価結果



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)日本通運(株)広島支店 事務	階数	地上7F
建設地	広島県広島市南区西蟹屋3丁目325	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準工業地域、準防火	平均居住人員	300 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	事務所,物販店,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年2月 予定	評価の実施日	2016年2月1日
敷地面積	2,084 m <sup>2</sup>	作成者	住野 弘
建築面積	701 m <sup>2</sup>	確認日	2016年2月2日
延床面積	4,340 m <sup>2</sup>	確認者	伊藤 公治



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.8</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q1 室内環境 (スコア: 3.5) Q2 サービス性能 (スコア: 3.5) Q3 室外環境 (敷地内) (スコア: 3.9) LR1 エネルギー (スコア: 3.7) LR2 資源・マテリアル (スコア: 3.4) LR3 敷地外環境 (スコア: 3.3)</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b></p> <p><b>Q のスコア = 3.6</b></p>		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>Q1のスコア= 3.5</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q2のスコア= 3.5</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>Q3のスコア= 3.9</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b></p> <p><b>LR のスコア = 3.5</b></p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LR1のスコア= 3.7</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>LR2のスコア= 3.4</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LR3のスコア= 3.3</p>

3 広島市の重点項目		
<p>重点項目の総平均スコア = <b>3.5</b></p>		
<p>「地球温暖化対策」の推進</p> <p>スコア = <b>3.7</b></p> <p>設計の計画上特段に配慮した事項 床・外壁・屋根に断熱材を設け、庇で日射を遮蔽し、LOW-eの複層ガラスを採用 / 太陽光パネルを設置 自然採光・自然通風の可能な窓を設置 / BEIm=0.76 / 建物で消費される各種エネルギー消費量を年間に渡って把握できるシステムを構築 / ホルムアルデヒド等の有害とみなされる材料は避け、規制対象内の材料 (JIS・JASのF☆☆☆☆) や自然の材料 (石) を選択し、機械換気設備 (24時間) を設けてます。(シックハウス対応) グリーン購入法における特定調達品目やエコマークを取得した商品や再資源化された材料 (再生クラッシュ)</p>	<p>「ヒートアイランド対策」の推進</p> <p>スコア = <b>3.0</b></p> <p>設計の計画上特段に配慮した事項 条例の緑化計画で必要な緑化面積に対して6倍の緑化施設を確保しています。 / 駐車台数は条例で必要な設置台数の1.5倍確保。 駐車場の出入口を2か所設置し、広島球場の野球の開催日は西側だけの出入りとして球場観覧者の動線と分離します。</p>	<p>「長寿命化対策」の推進</p> <p>スコア = <b>3.3</b></p> <p>設計の計画上特段に配慮した事項 施設の変動に追従出来る様に、間仕切り壁は乾式工法とし融通性のある建物としています。 耐用年数の長い金属パネルや御影石を外装に採用し、庇を設けて汚れを軽減してメンテナンスの少ない外装にしています。 / OAフローアを採用し隣接してEPSを設けて将来の電気機器類の更新・設置の対応します。 適正な場所に配管スペース等を設け建築寿命より短い設備機器や配管材料の更新に対応出来る計画としています。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される